

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 7 月 25 日現在

機関番号：34701

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22330164

研究課題名(和文) 国際比較に基づくアーカイブズと社会の関係に関する総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive study on the relationship of society and archives based on international comparison

研究代表者

藤吉 圭二 (Fujiyoshi, Keiji)

高野山大学・文学部・教授

研究者番号：70309532

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,200,000円、(間接経費) 3,660,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は「オーストラリアと日本の自治体における業務記録管理システムの比較研究」(課題番号18330117、2006～2008年度)の成果をもとに構想・推進された。当初はオーストラリアのヴィクトリア州を主たる研究対象とし、電子ネットワーク時代の政府がどのようにアカウントビリティ確保に努めているかを調査・研究したが、政府も含め組織や団体がみずからの記録をどう扱うかということ自体が歴史的、社会的、文化的な影響を強く受けること、記録の扱い方と社会のあり方に強い相関のあることを踏まえ、世界各地の特徴的な地域で調査を推進し、一方でその成果の国際学会等での報告を通じ、国際的な研究ネットワーク構築を進めた。

研究成果の概要(英文)：This research project is based on the Comparative research on record management system of public administrative organizations between Australia and Japan (2006-2008). Its main purpose was to learn how the Victorian government made their administrative records accessible to the public on the Internet in this digital age. The on-site research revealed that the attitude toward the governmental records differs from country to country depending on the historical, social, and cultural context. According to this finding, we conducted the on-site research in several characteristic countries and held a research session at the international conference of academics.

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：アーカイブズ レコードマネジメント アカウントビリティ 人権 体制転換 社会統合 記録と記憶
国民意識

1. 研究開始当初の背景

日本での公的記録への関心は、しばしば記録の改竄や廃棄など負の側面に向き、アーカイブズの積極的な意義はあまり指摘されなかった。アーカイブズには、(1)適切に保存された業務記録の参照によって業務遂行を効率化する、(2)適切に保存された業務記録の公開によって、市民への挙証説明責任を確保する等の理由で、現用から現用終了に至る持続的な記録管理、すなわち、上記の廃棄・改竄なども含む、包括的な記録管理が重要だ。

こうした関心を、近年の電子環境の普及が加速している。第一に、ソフトウェアも装置も多様な電子記録をどう管理し、日常的な利用や将来の保存・公開体制を確実にするかは重要な論点である。第二に、電子記録はウェブ上での公開が容易となる点が特徴で、これにより政府の説明責任への市民の意識を高める。これらを念頭に電子記録管理の先進地域であるオーストラリア・ヴィクトリア州において公文書館 PROV を中心に策定された電子記録管理標準が VERS である。

前回の研究ではこの VERS とそれを推進する PROV の姿勢について明らかにしたが、一方で、新たな課題も明らかとなった。すなわち、記録の作成・利用・保存・公開いずれもが、当該社会の文化的・政治的事情に強く影響されるという点である。VERS は一つの模範だが、先進的事例だから日本へ移植すればよいということではない。VERS 策定の文化的・社会的背景まで捉え、それを日本ほかの諸国と比較することが不可欠と判明した。こうした認識を報告すべく 2008 年には国際社会学機構世界大会でアーカイブズをテーマにセッションを設け、その認識の妥当性を海外の研究者からも確認することができた。これらにより、アーカイブズ研究の視点を、次の 4 項目に整理できたのである。

2. 研究の目的

アーカイブズの社会的意義考察には次の 4 点の調査・研究が必要との認識を踏まえ、これを本研究の目的とした。

(1) 記録による業務コントロール

業務記録の適切な管理・保存には記録管理方式の標準化が必要とされる。行政内部で機関ごとに方式が異なれば、それらを統合したアーカイブズも、検索システムの構築も困難である。それゆえ、特に電子記録作成の標準化が強力に推進される。記録のとり方の標準化は、仕事の進め方の標準化を促す。また現場には、みずからの活動が常に記録に残されるという意識が醸成され、スタッフの働き方にも影響する。記録管理のスタイルと業務遂行のスタイルとの相関という前回の研究課題を、国際比較の観点から展開する。

(2) ナレッジマネジメント

VERS によって保存・ウェブ公開される電子記録は外部だけでなく、政府の業務遂行過程でも参照・利用される。この点で記録管理 record management とナレッジマネジメン

トの関連を調査する。これも国際比較の観点から展開し、政府関連組織を中心に現地調査を実施する。ナレッジマネジメント、人、記録という三者の関係を軸に、記録の活用のあり方についての国際比較研究を進める。

(3) 市民社会とアーカイブズ

行政のアカウントビリティ確保とアーカイブズは緊密な関係にあるが、アーカイブズは基本的に過去の記録を保存・公開する機関である。行政のアカウントビリティ確保には現用段階からの適切な記録管理と、それを支える法整備が不可欠である。ヴィクトリア州では 1973 年に公文書法 (Public Records Act) が成立し、政府機関の作成する文書に対して現用段階から管理の指針を示す権限を PROV に付与している。また、ヴィクトリア州都メルボルンの監獄博物館には PROV の提供した当時の囚人の顔写真や調書など個人情報を含んだ記録が展示されている。これらは、情報公開と個人情報保護に対する意識が、社会によって大きく異なることを示唆する。本研究はこの面で対象とする国を広げ、社会による相違に関し法制面も含めて比較研究を進める。

(4) 社会統合・集合的アイデンティティとアーカイブズ

PROV もそうだが、地域の資料を蓄積するアーカイブズは、その地域の集合的・社会的なアイデンティティを確保する拠り所として、人々のメンタルな部分にも働きかける。それはまた、単に出来事の記憶を人々に喚起するだけでなく、その記憶を一定方向に誘導しようという意図的な働きを持つ場合もある。本研究ではアーカイブズのこのような側面にも調査・研究の範囲を広げ、基本的なデータの収集を進めていく。

3. 研究の方法

2010 年

ハンガリーでの現地調査：社会統合・集合的アイデンティティとアーカイブズ

アイデンティティと個人情報：ハンガリー・ブダペストの国立アーカイブズの協力を得て予備的な調査をする。同館のサイトは自分の 5 代前までの家系図を作成できるサービスを公開しているが、こうしたサービスは今の日本では考えられない。この点に関する意識を中心に調査する。

歴史と社会統合：ハンガリー人研究者の協力を得て、ブダペストの House of Terror をめぐる言説調査をする。これはナチス占領下およびソ連支配下の時代に秘密警察の本部となった建物を、そのまま使った博物館である。戦争や震災など、被害者としての記憶を残し伝える博物館は国内外に多い。しかし House of Terror は、「国民」アイデンティティに亀裂をもたらす潜在力を持つ。これは人々の「歴史」や「和解」ひいては社会統合に関する意識の検討に貴重である。

2011 年

合衆国での調査：市民社会とアーカイブズ
アカウントビリティとアーカイブズ：アメリカはアーカイブズ先進国として知られるが、一方で合衆国の研究者の多くがアーカイブズを「エスタブリッシュメントの所有物」と見ているという。アーカイブズが「彼らのもの」でありつづける限り、それは市民社会でアカウントビリティ確保のための役割を担うのは困難である。この点に関して予備的調査を実施する。

マイノリティとアーカイブズ：サンフランシスコの海外研究協力者は勤務先の州立大学で、これまで公的記録に残されることの稀だった社会的マイノリティのデジタルアーカイブズを構築するプロジェクトを立ち上げ、アイデンティティやセルフエスティメート回復のためのプログラムを推進している。その取組みを現地調査し、多文化共存状況でのアーカイブズの役割を討議する。

2012年

オーストラリアでの調査：研究目的4項目にわたる全般的調査

PROVの調査は本研究の出発点となったもので、今回特に以下の諸点について調査を進める。

記録による業務コントロール：PROVの協力のもと、記録の作成が電子化・標準化されて各機関の業務遂行にどのような変化が見られたか、現場スタッフを対象に調査する。また、最近PROVが州政府各機関に対して実施している記録管理のコンサルティングの概要と成果を調査する。

社会統合・集合的アイデンティティとアーカイブズ：VERSを推進するPROVは、一方でヴィクトリア州の歴史を物語る記録を積極的にウェブ公開し、館でもテーマ展示を実施している。公的記録によって歴史を語ることで、ヴィクトリアの地域アイデンティティを醸成することが意識されている。これらについて情報収集を進める。

2013年

研究成果の公刊：3年間の研究成果を報告書として公刊し、大学図書館、日本国内のアーカイブズなどに配布する。

4. 研究成果

4年間を通じおおむね良好な研究成果を得られた。特に本研究申請後に開催が告知された国際社会学機構世界大会（2012年2月16日～2月19日、インド・デリー）にて急遽アーカイブズに関するセッションを持つこととし、海外研究者との連携の強化拡大を図れたことは、貴重な収穫となった。

2010年

（1）ハンガリーでの調査1：国立アーカイブズでは家系図作成サービスを軸として、個人情報に対するハンガリー社会の意識について調査した。加えて、旧社会主義国だった時代の政権アーカイブズを見学できただけでなく保管状況、利用状況について詳細な説

明を受けた。その過程で、旧社会主義時代の情報公開については、秘密警察や市民による密告体制に関連して、簡単には進められない問題を含んでいることを確認できた。

（2）ハンガリーでの調査2：中央ヨーロッパ大学付属のOpen Society Archives（OSC）を訪問調査した。市民社会においては、アカウントビリティを確保する政府の組織アーカイブズだけでなく、市民レベルの活動に関するアーカイブズも重要で、両者が補完し合って市民社会の健全性が担保されるという点から貴重な示唆を受けた。

2011年

（1）アメリカでの調査1：ワシントンDCで政府アーカイブズ機関の調査を実施した。NARAと議会図書館を訪問し、後者では、立法府における情報収集機関としての図書館の役割について情報提供を得た。

（2）アメリカでの調査2：サンフランシスコでは州立大学の研究協力者を訪問し、大学で推進するデジタルアーカイブプロジェクトについて、および社会的マイノリティのためのアーカイブズの意義について他の実働メンバーも含めて意見交換した。

（3）アメリカでの調査3：上記協力者の紹介でサンフランシスコのGLBT歴史博物館を訪問し、学芸員ほか館の運営メンバーに聴取り調査を実施した。これを通じ、アーカイブズや博物館が過去と現在をどう結びつけているかについて示唆を受けた。

（4）アメリカでの調査4：パークレーで海外協力者である組織論研究者と面会し、現在の組織論研究の課題およびアーカイブズの視点を組織論研究に活かすための方向性について意見交換した。

（5）ヨーロッパ圏での調査：研究分担者がハンガリー、チェコ、フランスのアーカイブズ関係者を訪問調査した。

（6）国際学会でのセッション開設：国際社会学機構世界大会でのセッション開設を急遽決定し、研究チーム数名で司会と報告を実施した。このセッションによりアメリカ、オーストラリア、インド、韓国、スペイン、スウェーデンの研究者と連携を進められた。

（7）国際学会での報告：アメリカで開催された組織マネジメントに関する国際学会で研究分担者が報告し、こちらでも研究書の共同執筆など海外協力者との連携を進めた。

2012年

（1）オーストラリアでの調査1：キャンベラで海外協力者とオーストラリア戦争記念館を訪問し、展示およびそれをめぐる館内外の議論について情報提供を受けた。第二次大戦では日本はオーストラリアの敵国であり、日本との交戦に関する展示については今も深刻な議論がつづけられており「歴史の共有」にまつわる問題点を整理できた。

（2）オーストラリアでの調査2：メルボルンでヴィクトリア州政府機関数か所の記録管理担当部署を訪問し、PROVの推進する

VERSが政府の現場にどの程度定着しているか、資料収集および聴取り調査を実施した。

(3)台湾での調査：2012年2月開催の国際学会で知己を得た海外協力者と連携し、国立アーカイブズ、国史館台湾文献館等を調査した。また、国立東華大学において市民社会とアーカイブズというテーマで学生向けの講演を行なった。マイナーなテーマにもかかわらず重要な内容を含むと理解され、質疑応答も活発になされた。

(4)マレーシアでの国際会議の実施：研究分担者が連携関係を構築し、マレーシアでの国際会議においてコミュニティ研究に関し東南アジアの研究者を中心に意見交換を実施した。

(5)英文報告書の発行：本研究以前より継続していたアーカイブズ研究に関する成果を、国際社会学機構世界大会(2008年、ハンガリー)日本社会学会(2010年、名古屋大学)での英語セッションをベースとして発行し、関係者に配布した。

(6)英文報告書の準備：前年度2月にインドの国際学会で開設したアーカイブズに関するセッションをベースとして、執筆者と連絡をとりながら英文報告書の作成を進めた。

2013年

(1)国際学会での報告：6月開催の国際社会学機構世界大会(スウェーデン)にて研究代表者が報告を行なった。アーカイブズの国際比較研究を進める過程で、「社会における個人」という古典的な課題がアーカイブズのあり方にも反映されていることを示し、スウェーデン、ポルトガル、ブラジル等の研究者より貴重なコメントを得た。

(2)研究分担者がオランダ・アムステルダム国際社会史研究所を調査すると共に、所員ほか現地のアーカイブズ関係者と交流して今後の共同研究のための意見交換を実施した。民間アーカイブズの先進的な取り組みは日本への視差も大きいことが判明した。

(3)スペインでのアーカイブズ調査：海外協力者と連携し、2月にスペイン・バルセロナでカタロニア・ナショナル・アーカイブズおよびバルセロナ市アーカイブズの調査を実施した。また、協力者の大学で開催されている研究会で市民社会とアーカイブズをテーマに報告とディスカッションを実施した。

(4)台湾での国際研究集会：研究分担者が参画し、3月に輔仁大学で組織論に関する研究集会を実施した。日本、台湾からの参加者を中心に活発な討議をすることができた。

(5)英文報告書の出版：2012年2月に実施した国際学会でのセッションをベースに、新たな執筆者も加えて英文報告書を発行し、関係者に配布した。2014年7月に開催される国際社会学会横浜世界大会XVIII ISA World Congress of Sociologyにも持参して参加者に配布する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

(雑誌論文)(計25件)

藤吉圭二, 体制転換とアーカイブズ ハンガリー国立アーカイブズを事例として, 高野山大学論叢 46, pp. 1-16, 2011.

安倍尚紀, 大衆消費社会における情報の民主化 Wikileaks, 記録管理システム、アーカイブズ, 社会活動を支える情報システム Vol.2011-IS-115 No.10, pp. 1-8, 情報処理学会, 2011.

安倍尚紀, 「おもしろさ」から見る情報リテラシー: マス・コミュニケーションの理論モデルを通して, 特定非営利活動法人地域情報モラルネットワーク法人設立1周年記念講演会報告書, pp. 2-50, 2010.

岡田順太, アーキビストの憲法的意義, 白鷗大学論集 第25巻2号, pp. 145-161, 2011.

藤吉圭二, ふたつの地域アーカイブズ DIVAとGLBT歴史協会の取り組みを事例として, 高野山大学論叢 47, pp. 1-22, 2012.

安倍尚紀, 地域における観光資源の析出・情報共有化 ユビキタス社会におけるアーカイブズとGISとの紐付け, 情報システムと社会環境 117, 情報処理学会, pp. 1-5, 2011.

Naoki DN ABE, Tadasuke TANIMURA, Safety Images generated in Disasters: Research Project about Representation of Security in Thai and Japanese tourism, Proceedings of Joint Conference on University - Community Engagement for Empowerment and Knowledge Creation, pp. 1-9, 2012.

Isomura, Kazuhito, Review of the introduction and application process of scientific management in Japan, CGSA フォーラム 10, pp. 95-106, 2012.

岡田順太, 憲法秩序とアーカイブズ 「国権の最高機関性」論・再考, 白鷗大学法科大学院紀要 5, pp. 11-38, 2012.

エリック・ケテラール著(森本祥子訳), 記録のパフォーマティヴ・パワー, GCAS Report/学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻研究年報 1, pp. 6-20, 2012.

藤吉圭二, 電子政府定着への取り組み オーストラリア・ヴィクトリア州政府を事例として, 高野山大学論叢 48, pp. 15-37, 2013.

Isomura, Kazuhito and Pei-Yuh Huang, Exploring the future direction of Japan's MBA education, Asia Pacific and Globalization Review, Vol. 2, pp. 1-14, 2012.

Bahaudin G. Mujtaba and Isomura, Kazuhito, Examining the Japanese leadership orientations and their changes, Leadership & Organization Development Journal, Vol. 33, No.4, pp.

- 401-420, 2012.
- Isomura, Kazuhito, Exploring practical thinking and knowledge on the basis of Chester Barnard's insights, *Conference paper presented at Western Academy of Management 53th Annual Meeting*, pp. 1-28, 2012.
- Isomura, Kazuhito, Search for missing links between records management and business administration, *CGSA Forum* (Chuo University)11, pp. 1-11, 2013.
- 岡田順太, 法学の立場から考える『臨床』, 日本臨床政治学会ニュース・レター8, pp. 7-11, 2012.
- 安倍尚紀, 谷村忠亮, 都市における安全情報に関する社会学的研究, 公益財団法人福岡アジア都市研究所・若手研究者研究活動奨励報告書, pp. 1-9, 2012.
- 藤吉圭二, 情報の共有と負担の共有 スウェーデンの情報公開制度とその背景, 高野山大学論叢 49, pp. 1-21, 2014.
- P.Y., Huang, K., Isomura, Developing empty stores to satisfy customers: the case of Nishimatsuya Chain, *Strategic Direction*, 29(9), pp. 35-37, 2013.
- Isomura, Kazuhito, Examining the impact of scientific management on records management in Japan, *CGSA Forum* (Chuo University)12, pp. 1-13, 2014.
- 岡田順太・岩切大地・大林啓吾・横大道聡・手塚崇聡, 国会質疑の技法 模範議会 2012 の手引き, 白鷗大学論集 27(2), pp. 255-304, 2013.
- 岡田順太・岩切大地・大林啓吾・横大道聡・手塚崇聡, 模範議会 2012: 記録と資料, 白鷗大学論集 28(1), pp. 377-434, 2013.
- 岡田順太, 国政調査権と国会事故調査 忘れられた「国権の最高機関」の一側面, 法学セミナー712, pp. 28-32.
- 安倍尚紀, マレーシア・クランタン州における Intercultural Learning and Community Engagement (ILCOME) プログラムの試み 短期留学でのソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) を活用したサービスラーニングにもとづいて, 大分県立芸術文化短期大学研究紀要 51, pp. 71-84, 2014.
- 平野泉, オランダ・国際社会史研究所を訪問して, 共催社会研究センターワーキングペーパー1, pp. 1-12, 2014.
〔学会発表〕(計 18 件)
- Abe, Naoki, Transparency, Totality in Modern Organizations and the Society: Possibility and Limitation Seen From the Case Study of Archives, 日本社会学会大会第 83 回 (名古屋大学), 2010.11.7.
- 安倍尚紀, オーラルヒストリーの思想的基盤 社会調査の方法論、調査倫理との比較において, 日本オーラルヒストリー学会第 8 回年次大会 (立教大学), 2010.9.12.
- Mizugaki, Gentaro, Paper or Person: Changing Record Management and Communication Style in Japanese Central and Local Governments, 日本社会学会大会第 83 回 (名古屋大学), 2010.11.7.
- Fujiyoshi Keiji, Archives in the Information Society (Coordinator of a thematic session), 日本社会学会大会第 83 回 (名古屋大学), 2010.11.7.
- 森本祥子, オーストラリア・シリーズ・システムの可能性について, 日本アーカイブズ学会研究集会 (国文学研究資料館), 2011.1.15.
- 藤吉圭二, 「アカウントビリティ」再考, 日本アーカイブズ学会 2011 年度大会 (学習院大学), 2011.4.24.
- 藤吉圭二, アーカイブズに関する社会学的な国際比較研究, 中京大学社会科学研究所「公文書管理制度の研究」プロジェクト第 7 回研究会 (招待報告・中京大学), 2011.12.16.
- Isomura, Kazuhito, Exploring practical thinking and knowledge on the basis of Chester Barnard's insights, Western Academy of Management, Marriott La Jolla (San Diego, USA), 2012.3.23.
- 岡田順太, 憲法秩序とアーカイブズ, 日本アーカイブズ学会 2011 年度大会 (学習院大学), 2011.4.24.
- Okada Junta, Archives in Parliament: Democratic Role of the Japanese National Diet Library, The 40th World Congress of International Institute of Sociology, India Habitat Centre (Delhi, India), 2012.2.19.
- Fujiyoshi, Keiji, Archives and Civil Society, 社会学特別講義, 国立東華大学 (台湾), 2012.12.4.
- ABE, DN Naoki, Sharing Large-Scale Open System for Recording Regional Information as Social Resource: Yet Another Phase of Intercultural Learning and Community Engagement, Intercultural Learning and Community Engagement (ILCOME2013), University Malaysia Kelantan, 2013.2.2.
- Fujiyoshi, Keiji, What is a "Man" in the Modern Japan?: An Overview of Family and Society, The 40th World Congress of the International Institute of Sociology, Uppsala University (Sweden), 2013.6.10.
- Fujiyoshi, Keiji, What being a "Man" means in the Modern Japan, UOC Research Seminar, Open University of Catalonia (Spain), 2014.2.6.
- Isomura, Kazuhito, Challenging issues of Japanese Capitalism, 73rd Annual Meeting of Academy of Management, Lake Buena Vista, Orland, Florida (USA),

2013.8.9-8.13.

Isomura, Kazuhito, Examining business models in Japan's apparel industry, Special lectures and workshop invited by Fu Jen Catholic University (招待講演), Taipei, Taiwan, 2014.3.20-3.22.

安倍尚紀・成田誠, SNS (ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス) を活用した地域連携教育, 平成 25 年度短期大学教育改革 ICT 戦略会議 (アルカディア市谷), 2013.9.4.

Zakaria, Farok, Kitahara, Mika, Abe, Naoki, Intercultural Learning and Community Engagement (IComE): Bridging University to the Villagers and Local Authorities, National Conference on Higher Education Institutions and Community Engagement 2013 (Jeli Campus, University malaysia Kelantan), 2013.8.26.

[図書] (計 10 件)

Fujiyoshi, Keiji (ed.), Isomura, Kazuhito, Mizugaki, Gentaro, Okada, Junta, Morimoto, Sachiko, Tamura, Keiko, Sakaguchi, Takahiro, *Archives, Accountability, and Democracy in the Digital Age*, Koyasan University, 2011, 81p.

ヴァレリー・R・ヤウ (著), 吉田かよ子 (監訳), 平田光司, 安倍尚紀, 加藤直子 (翻訳), *オーラルヒストリーの理論と実践 人文・社会科学を学ぶすべての人のために*, インターブックス, 2011, 471p.

アレックス・リッチー 著, 森本祥子 訳 (公益財団法人 渋沢栄一記念財団 実業史研究情報センター 編), 「ビジネス・アーカイブズに関する全国戦略 (イングランドおよびウェールズ)」 (『世界のビジネス・アーカイブズ: 企業価値の源泉』), 日外アソシエーツ, 2012, 272p. (pp. 118-127)

Tamura, Keiko, (Chrisine DeMatos and Rowena Ward eds.), *Forced Encounters and Gendered Impacts: Past, Present and Future Gender, Power, and Military Occupations: Asia Pacific and the Middle East since 1945*, London & New York: Routledge, Francis and Taylor, 2012, 254p. (pp. 239-245)

磯村和人, *変革の哲学*, 野中郁次郎 編 『経営は哲学なり』, ナカニシヤ出版, 2012, 256p. pp. 91-155.

新井誠・岡田順太・柳瀬昇・岩切大地・横大道聡・小山剛, *憲法*, 『判例回顧と展望 2011 年度版 (法律時報 6 月臨時増刊)』, 日本評論社, 2012, pp. 3-24.

Abe, Naoki, *International Association for Community Engagement* (ed.), *International Journal of Community Engagement* (ISBN: 978-4-907297-00-8), International Association for Community

Engagement, 2013, 100p.

Fujiyoshi, Keiji (ed.), Isomura, Kazuhito, Okada, Junta, Hirano, Izumi, *Archives for Maintaining Community and Society in the Digital Age*, Koyasan University, 2013, 138p.

Mujtaba, B. G. (ed.), Isomura, Kazuhito, *Capitalism and Corruption across Borders: Perspectives and Examples from the African, Asian, North American Continents*, ILEAD Academy, LLC, 2013, 228p.

岡田順太, 要点演習 行政法 (第 4 次改訂版), 公職研, 2013, 157p.

[産業財産権]

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

[その他]

ホームページ等

http://homepage3.nifty.com/fjosh/projects/archives_2.htm

<http://homepage3.nifty.com/fjosh/2012Delhi.htm>

<http://web.sfc.keio.ac.jp/~junta/>

6. 研究組織

研究期間終了時点のメンバーを記載。

(1) 研究代表者

藤吉圭二 (Fujiyoshi, Keiji)

高野山大学・文学部・教授

研究者番号: 70309532

(2) 研究分担者

磯村和人 (Kazuhito, Isomura)

中央大学・国際会計研究科・教授

研究者番号: 60241733

岡田順太 (Okada, Junta)

白鷗大学・法学部・准教授

研究者番号: 20382690

水垣源太郎 (Mizugaki, Gentaro)

奈良女子大学・文学部・准教授

研究者番号: 10294274

安倍尚紀 (Abe, Naoki)

大分県立芸術文化短期大学・講師

研究者番号: 90401710

平野泉 (Hirano, Izumi)

立教大学・共生社会研究センター・研究員

研究者番号: 00585408

(3) 連携研究者

()

研究者番号: